

予報期間 7月28日から8月3日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第9号については最新の台風予報を参照。
- 31日にかけて、高気圧が本州付近を覆う。
- 8月1日と2日は、気圧の尾根が千島の東から北日本付近へのび、日本の南は気圧の谷となる。
- 3日は、日本付近は気圧の谷となる。

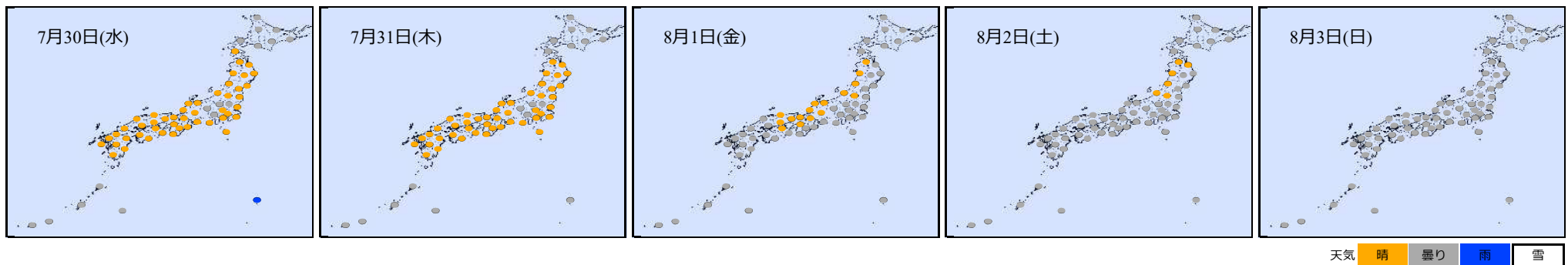
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 30日頃にかけて、小笠原諸島は台風第9号の影響で大しけとなり、台風の進路や発達によっては、暴風や警報級の大雨となるおそれがある。
- 北日本から西日本にかけては、気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

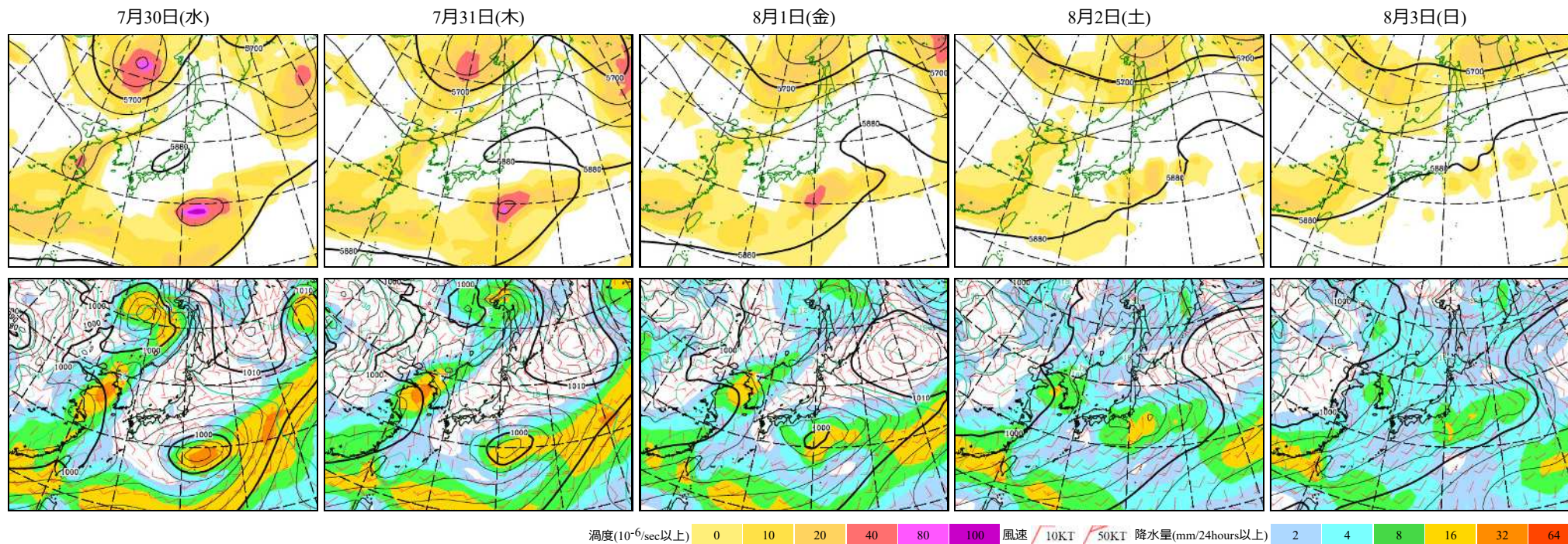
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

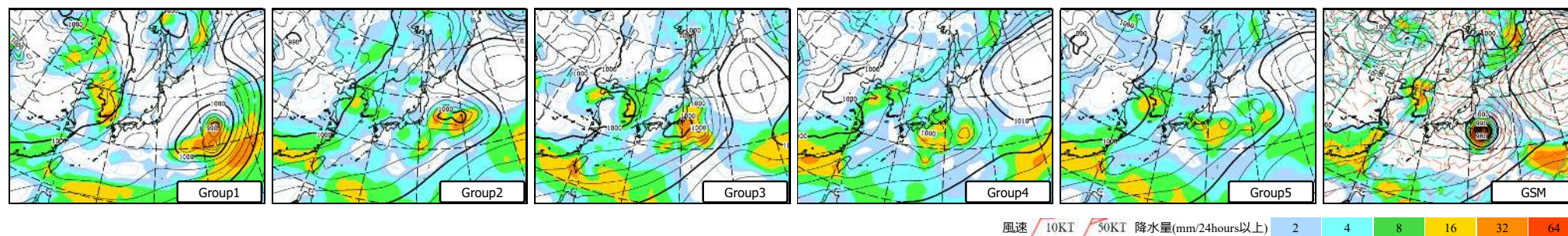


- 北日本から西日本にかけては、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、期間を通して雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月2日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、30日から31日は千島近海のリッジの東進が遅くなり、サハリン付近の低気圧が浅くなった。
- 台風第8号から変わった熱帯低気圧は、各モデルとも華中東岸または黄海付近に留まる予想。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、日本の南の熱帯じょう乱の予想は不確実性が大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。